

研究主題「筋道を立てて文章を書く力を育成する指導の工夫

- 文章構成に着目して - 」

東京都教職員研修センター研修部教育経営課
足立区立鹿浜小学校 教諭 岸 香 織

研究のねらい

1 研究主題設定の理由

国立教育政策研究所における「特定の課題に関する調査（国語）」の調査結果（平成18年7月）によると、小学校第4、5、6学年では、長文記述において、自分の考えが明確になるように段落を構成し、相互関係を考えて書くことに課題があることが明らかになった。また、所属校の児童の意識調査からは、書き方が分からないために書くことが嫌いであると感じている児童が多いことが分かった。筋道を立てて文章を書くには、段落を組み立てることと筋道の立て方に応じた書き表し方を理解することが必要である。

そこで、文章の構成に関する指導事項を明らかにし、筋道を立てて文章を書くための指導の工夫をする必要があると考え、上記の研究主題を設定した。

2 研究の仮説

「書くこと」の学習において、文章の構成に焦点を当てた指導の工夫をすることにより、児童は、段落の組立て方を理解し、筋道を立てて書くことができるようになり、書くことに対する意欲を高めることができる。

研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 文章の構成に関する指導事項の明確化

小学校学習指導要領解説国語編（平成11年5月）を基に、発達段階に応じた「書くこと」の構成に関する指導事項を整理した（表1）。「筋道を立てて文章を書く力」を本研究では、「段落を組み立てる力」と「筋道の立て方に応じて書き表す力」ととらえた。

表1 「書くこと」の構成に関する指導事項（一部抜粋）

学年	目標	構成に関する指導事項
第1・2学年	経験した事や想像した事などについて、順序が分かるよう、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。	ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。 ・文には始めと終わりがあることを理解できるようにする。 ・入門期においては、伝えたい事ははっきりさせて文を書くことが、指導の中心となる。

(2) 筋道を立てて書くための段落の組立てと書き表し方

文章構成とは、自分の考えを明確に表現するための文章における論の進め方である。文章を書く際には、論の進め方を具体化した段落の組立てを理解する必要がある。小学校で児童に身に付けさせたい論の進め方と段落の組立て例を分析し、整理した（表2）。

また、段落を組み立てる力とともに、時間の順序、主張と根拠、疑問と解決等の筋道の立て方に応じた書き表し方を身に付けることが必要である。

表2 論の進め方と段落の組立て例（主張と根拠）

3部構成 < はじめ・中・おわり > ・はじめ...自分の考え ・中 ...考えの根拠となる事象 ・おわり...自分の考え 段落の組立て例 ・はじめ 第1段落...主張 ・中 第2段落...根拠となる事象 第3段落...根拠となる事象 第4段落...根拠となる事象 ・おわり 第5段落...主張
4部構成 < 起承転結 > ・起...自分の考え ・承...考えの根拠となるもの ・転...立場を変えて見たもの ・結...自分の考え 段落の組立て例 ・起 第1段落...主張 ・承 第2段落...根拠となる事象 第3段落...根拠となる事象 第4段落...根拠となる事象 ・転 第5段落...問題点や課題とその解決策 ・結 第6段落...主張

2 カリキュラム開発

(1) 指導展開例の開発

「書くこと」の学習では、取材・構成・記述・推敲の過程ごとに指導事項を指導していくため、単元の指導時間が長くなることが多い。そこで、本研究では、段落の組立てに重点をおいた1単元の指導展開の工夫を図った。これにより、年間指導計画に位置付けやすくなり、書く機会を多くすることが可能となる。指導展開として2例を開発した。

自己の課題の意識化をねらいとした指導展開（指導展開例A）＜記述 - 学び - 記述＞

表3 指導展開例A：4時間扱い

時間	学習過程
第1時	既習知識による記述
第2時	例文での学習・推敲
第3時	共同作文の作成
第4時	記述・推敲・評価

指導展開例Aは、単元で学習する構成に関する事項に対し、児童が課題意識をもって取り組むことを目指す展開例である。

第1時では、今までに身に付けてきた書き方を想起し、整理をして記述を行う。第2時では、例文を読み、書き方の特徴をとらえ、構成に関する事項を中心に第1時に書いた作品を推敲する。ここで、段落の組立てに関する自己の課題を

明確にすることができる。そして、第3時では、例文で学んだ段落の組立てによる書き方で、学級全体で一つの作品を作る（以下、共同作文とする）。第4時では、新しい題材で記述を行い、書き方を習得する。

なお、第1時、第4時の「記述」における1単位時間の学習過程は、図1のように展開することとした。

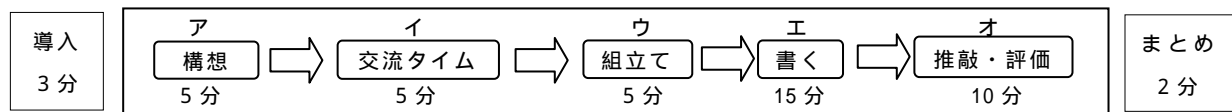


図1：指導展開例Aの「記述」「記述」における1単位時間の学習過程

ア 構 想... 構想用ワークシートに、自分の考えを記入し、構成メモを作成する。

イ 交流タイム... 4人グループで、構想用ワークシートに記入した考えを互いに発表する。
発表し合うことで自分の考えを確認したり、考えや根拠となる事柄に違いのあることに気付いたりする。

ウ 組 立 て... 友達の発表を聞き、参考にしたい意見を構成メモに追加したり、記述する順番を変えたりし、論の進め方や段落の組立て方を考える。

エ 書 く... 構成メモを基に記述する。その際、例文や共同作文を参考にする。

オ 推敲・評価... 構成に関する事項について推敲・自己評価をし、その後相互評価をする。

指導事項を焦点化した指導展開（指導展開例B）＜学び - 記述＞

表4 指導展開例B：3時間扱い

時間	学習過程
第1時	例文での学習・共同作文の作成
第2時	記述（構想・交流タイム・組立て）
第3時	記述（書く・推敲・評価）

指導展開例Bは、例文や共同作文による書き方の理解をしてから、記述をする展開例である。

指導展開例Aは、1単位時間に構想から評価までを行うため、題材に限られる。指導展開例Bでは、「構想・交流タイム・組立て」で1時間、「書く・推敲・評価」で1時間設定することで、題材の幅が広がり、まとまった分量の記述をすることができる。

これら指導展開例A・Bを進める中で、文章構成の仕方及び書き表し方の力を確実に付けるため、次の3点の手だてを講じることとした。

表5 指導展開例における手だて

手だて		指導の工夫
	例文の提示	単元で身に付けさせたい文章構成の仕方や書き表し方を例文で提示する。このことにより、児童の課題意識を高める。
	共同作文の作成	構成メモの作成から、書き表すところまでを学級全員で実際に行い、一つの作品に仕上げる。例文で示した段落の組立てを参考に、話し合いをしながら児童の発言や考えを基に教師が板書していく。個人での記述の前に、学級で作成することで、書き表し方の理解を深めることができる。
	構成用ワークシートの工夫	段落の組立て方が明確になるようなワークシートを数種類用意し、児童が自己の課題に応じてその中から選べるようにする。

(2) 「書くこと」の年間指導計画例の作成

文章構成に関する指導を重点的に行えるような「書くこと」の年間指導計画例を作成した。その際、上記の指導展開例や手だてを活用して、段落を組み立てる力及び書き表し方を習得できるよう配慮した。

3 実践研究

小学校第6学年(2学級58名)を対象に、前述のような指導展開や手だてを用いて授業を行い、文章構成の理解や書くことへの意欲の変容等について検証した。

(1) 単元名 「根拠を明らかにして書こう」

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
ア 身近な問題について、自分の考えをもち、筋道を立てて表現しようとしている。	ア 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理している。 イ 段落の組立てを考えながら書いている。 ウ 事象と意見を区別して書いている。	ア 文章の構成について理解している。 イ 主語、述語が対応し、ねじれの無い文で書いている。 ウ 適切な接続語を使っている。

(3) 単元指導計画

第1次

ここでは、3部構成による段落の組立て方(主張と根拠)を指導展開例Aで指導した。

時間	学習過程	手だて			学習活動
		例文提示	共同作文	ワークシート	
第1時	既習知識による記述				・「好きな季節」について記述する。 【記述1】
第2時	例文での学習・推敲				・例文を基に、3部構成による段落の組立て方を学習し、第1時に書いた作品を推敲する。
第3時	共同作文の作成				・前時に学習した構成の仕方、共同作文を作る。
第4時	記述 推敲・評価				・3部構成による段落の組立て方で、「遊ぼうデーの遊び」について記述をし、推敲・評価をする。 【記述2】

第2次

上記の学習の後、さらに4部構成による段落の組立て方(主張と根拠)を、ここでは、指導展開例Bで指導した。

時間	学習過程	手だて			学習活動
		例文提示	共同作文	ワークシート	
第1時	例文での学習・共同作文の作成				・例文を基に、4部構成による段落の組立て方を学習し、共同作文を作る。
第2時	記述 (構想・交流タイム・組立て)				・10の題材例から一つを選び、構想・意見交流・組立てを行う。
第3時	記述 (書く・推敲・評価)				・3部又は4部構成による段落の組立て方で、選択した題材について記述をし、推敲・評価をする。 【記述3】

研究の結果と考察

1 筋道を立てて書く力の向上

指導展開例 B【記述 3】における児童の作品を、文章構成の理解、主張と根拠による記述、接続語の使用の三つの観点から分析した。

分析の結果、3部構成での記述が 15 人、4部構成が 42 人であった。そのうち、主張と根拠による論の進め方について 45 人(76%)の児童が理解していた。第 1 次の第 1 時(指導展開例 A)の既習知識による【記述 1】では、論の進め方や段落について意識し

ないで書かれている作品が目立った。一つの段落のみで書いていた児童は 11 名(20%)いた。しかし、学習後の【記述 3】では、1 段落 1 事項で書くことができるようになり、段落数については、図 2 のような結果となった。例文の提示、共同作文の作成、構成用ワークシート等の文章構成に関する指導の工夫を行ったことにより、論の進め方を意識し、段落を組み立てて書く力が付いたと言える。

また、主張と根拠を明確に書いてある児童は 54 人(93%)、接続語を適切に使用している児童は 56 人(97%)であった。段落の組立てを理解したことで、主張を書く段落と根拠を書く段落が明らかとなり、読み手にも理解しやすい文章となった。

段落を組み立てることができ、主張と根拠による書き表し方ができるようになったことから、筋道を立てて文章を書く力が付いたと考える。

2 児童の書くことへの意欲の高まり

文章構成に関する指導事項を明確にして学習指導を行ったことで、児童は、自分が身に付けた力を実感することができ、成就感や達成感をもつことができた(図 3)。授業後には、児童から「書き方が分かったから書きやすくなった」という感想があり、38 人(68%)の児童が「主張と根拠による書き方が分かった」と回答している。また、「前は書くことが好きではなかったけれど、この授業で少し好きになれた」等、書けるようになったと感じたことで、書くことに対する意識が肯定的な受け止め方に変容した。

3 本研究で明らかとなった書くことの学習指導

(1) 単元の効果的な指導展開・手だて

文章の構成に焦点を当てた単元の指導展開や手だてを工夫したことにより、児童は、段落の組立て方や文章の書き表し方が分かり、筋道を立てて文章を書くことができるようになった。

(2) 年間指導計画に位置付けた継続的・系統的な文章構成の指導の必要性

段落の組立てについて系統的に指導事項を学習したことで、文章構成の仕方、書き表し方の定着が図れた。書く機会を多くし、継続的に取り組めるよう年間指導計画に位置付けて指導していくことが必要である。

今後の課題

単元ごとにねらいを達成できるような題材の開発を行い、段落の組立て例を作成するとともに適切な例文の開発を行う。

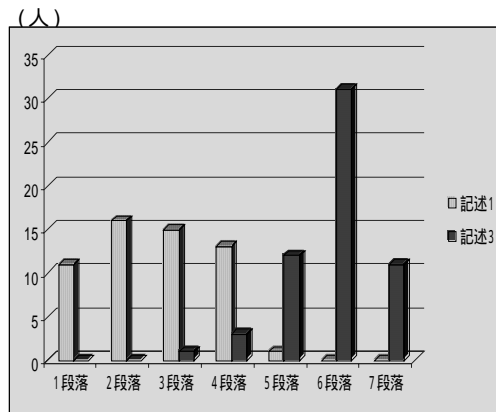


図 2 【記述 1】と【記述 3】における段落数の変化

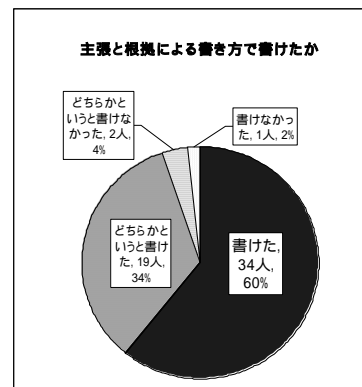


図 3 授業後の児童の意識調査から